

ようこそ 図書館へ

第14号

2013年 4月
津市図書館

おもな内容

P2～P3…リサイクルフェア
P4………レファレンス事例集・図書館員のおすすめ本
P5………知ろう私たちの郷土



2012.8.5やまびこ夏のおはなし会(安濃図書館)



2012.8.5親子折り紙教室(芸濃図書館)



2012.10.8松本猛さん春野さん講演会(津図書館)



2012.11.4フレンズポコ座のおはなし会(美里図書館)



2012.11.25マジックボックスのおはなし会(きらめき図書館)



2012.12.2鈴木のりたけさん講演会(一志図書館)



特集 リサイクルフェア '12

今年度は津市内の図書館9館で図書資料のリサイクルフェアを開催しました。市内の各図書館で利用され尽くした資料(除籍した資料)を再度市民の方々に読書に親しんでいただくため有効活用していただいております。市内すべての館において、たくさんの方々にお越しいただき、大盛況でした。

■津図書館

津図書館は、3年毎に行っており、今年も2日間にわたって行われました。例年リサイクルフェアはたくさんの方々に親しんでいただき、今回のリサイクルフェアも整理券を事前に配布し入場制限させていただきました。初日の朝10時の開館前には約150人に並んでいただきました。小説は幅広い年齢層の方に、絵本はお子さん連れの方に、主婦層の方には料理本等が好まれ、初日から好評でした。たくさんの方々に、図書館で役目を終えた本を再利用いただくことができました。



■河芸図書館

河芸図書館では、毎年図書館1階ロビーでリサイクルフェアを開催しています。今回は、児童書がすぐになくなってしまいました。時間をかけて本を選ばれる方や、お目当ての雑誌を見つけて持ち帰られる方などいらっしゃいました。河芸図書館では他にも講座やイベントを行っていますが、リサイクルフェアもこれらと同様好評をいただいております。

■芸濃図書館

毎年、この催しを楽しみにしてみえる方も多く、今年も開場前にたくさんの方が並ばれました。開場後、それぞれお目当てのコーナーに向かわれるのですが、中でも雑誌、料理本、児童書のコーナーは盛況で人だかりができていました。図書館での役目を終えた後も、このような形で使われていくことは本にとっても幸せなのでしょうね。



■久居ふるさと文学館

7月1日から2日間開催されました。たくさんの方々にご来場いただきました。今回文学館では、旅行本、雑誌、小説をリサイクル本として提供致しました。初日は開館まもなく人気の本は即座になくなってしまいました。昨年までは1室での開催のため非常に混雑し、迷惑をおかけしていましたが、今回は3室に拡大し、比較的ゆったりと本を選んでいただけました。今回は児童書が無く、落胆されて帰られた利用者の方もおられましたが、新たな本の出会いとしてリサイクルフェアをご利用いただければと思います。

■美里図書館

開館前から並んでお待ちいただき、好みの本を選んで満足そうな笑顔がみられました。小説や絵本などが少なかったため、雑誌や料理本が人気でした。遠方からもたくさん来ていただき、中には自転車でも1時間程かけて来られた方や、他館のリサイクルフェアも楽しみにしているという声も聞かれ、楽しみにいただいている様子が伺えました。当日は美里在住松原豊さんの「大槌町/2011夏・2012/冬」写真展も開催していたので大勢の人にお越しただけでした。

■安濃図書館

リサイクルフェアは毎年6月末から7月上旬にかけて行っているため、初夏の行事として利用者の方々に定着してきています。平日、休日と両方行っているため、仕事を持つ方にも来館していただきやすく大変好評でした。また、リサイクル資料を入れ替えているため二日目も楽しみに来館していただき、フェアのお知らせを昨年より市内の近隣図書館へチラシの掲示をさせていただいているため参加者が増えました。



■きらめき図書館

これまでは図書館内のブラウジングコーナーで実施していましたが、提供数が多くなってきたこと、利用者の方にゆとりのあるスペースで、じっくり本を選んで欲しいとの思いからサンデルタ香良洲内の「すこやかルーム」へ場所を変更しての開催となりました。開催初日の9時にはお気に入りの資料を手に入れようと20名程の方が並んでいました。開始時間の9時になり、ドアが開放されると、思い思いのコーナーに足早に行かれ、お目当ての本を手にもって微笑まれていました。

■一志図書館

今年もたくさんの方に本をお持ち帰りいただきました。人気の雑誌や、手芸・料理関係の本などは早くになくなってしまいました。じっくりと本を眺めて「掘り出し物を見つけたわ」と喜んで帰っていかれる方も多かったです。開催期間が長いため、ご都合のよいときに気軽に立ち寄っていただけるのが当館の魅力です。



■うぐいす図書館

うぐいす図書館では、6月2日と3日の2日間、図書館内の入り口で開催しました。3年に1度の開催で雑誌のみのリサイクルフェアですが、たくさんの方々が開館前から並ばれました。園芸、料理やスポーツ関係の雑誌は人気があります。人気のものはすぐになくなってしまいます。廃棄される雑誌がみなさんに喜んで有効利用していただけて嬉しいです。いずれ、図書や絵本についてもフェアを開催します。

平成24年度 リサイクルフェア内容詳細

館名	日程	入場者数	開催周期
津図書館	11月8日・9日	1,213人	3年ごと
久居ふるさと文学館	7月1日・2日	373人	毎年
河芸図書館	10月26日～28日	240人	毎年
芸濃図書館	6月16日	180人	毎年
安濃図書館	6月29日～7月1日	252人	毎年
美里図書館	6月23日～25日	198人	2年ごと
きらめき図書館	6月9日～6月11日	143人	毎年
一志図書館	9月12日～26日	756人	毎年
うぐいす図書館	6月2日・3日	177人	3年ごと

レファレンス事例集

Q 児童用の原発の本を探しています。

A 『フクシマから学ぶ原発・放射能』
(安齋育郎監修 かもがわ出版)
『14歳からの原発問題』(雨宮処凛著 河出書房新社)
『これが原発だ』(樋口健二著 岩波書店)
『原発を考える50話』(西尾漢著 岩波書店)
『チェルノブイリから広島へ』(広河隆一著 岩波書店)
などがあります。

Q しその実の塩漬けを作りたい。作り方の載っている本はないか。

A 『おばあちゃんに聞いた保存食』(城ノ内まつ子著、文化出版局)があります。

Q 津市の魚問屋で「岡」という名前の人がいるか知りたい。昭和頃まで商売をしていた「岡」という魚問屋と同じか、関係があるか知りたい。

A 『津市史2巻、3巻』によると「岡 伝左衛門」「岡 嘉平治」のことだと思われます。また『津市史1巻、4巻』によると、代々浜年寄として「漁事・船運・海運の事務」を行っており、元禄年間(1688-1703)には町年寄として行政にも参画した家柄で、明治5(1872)年に他の家と共同で魚商會を設立・経営したが後に岡嘉平治が退いたとあります。

Q オペラ「カルメン」が日本で上演された年月(日)について知りたい。

A 『名作オペラブックス8』(音楽之友社1988 R766.8)によると、1919年イタリア語版「カルメン」が横浜で上映される、1935年3月24日、日本の東京で「カルメン」が初演されるとあります。『新国史大年表』7巻(国書刊行会2011 R210)では、1919(大正8)年の1月5日に俳優の松井須磨子が有楽座で「カルメン」公演中に自殺したという記事があり、他には同年9月1日から24日にロシア・グラウンド歌劇団、「アイダ」「椿姫」「ファウスト」「カルメン」「トスカ」など帝劇で公演、大正15年3月10日から29日にはイタリア歌劇団、帝劇で「リゴレット」、「椿姫」、「アイダ」、「ファウスト」、「カルメン」、「ボエーム」などを講演したとあります。

～図書館員のおすすめの本～

『としょかんねずみ』 ダニエル・カーク/さく わたなべてつた/訳 瑞雲舎

図書館に住むネズミ、サムは子どもの本の調べ物コーナーの後ろの穴に住んでいます。図書館が閉まるとサムは館内へ出て行って、思う存分本を読んでいます。いろんな本を読むうちにサムは自分でも本を書いてみようと思いたち、出来上がった本をこっそりと書架へ置いていきます。その本は図書館で好評となったので、司書さんは作者がどんな人なのか不思議に思い、作者に会いたいと掲示板に手紙を貼ります。手紙には謎の作家さんに会おうというイベントまで企画しようとしていると書かれています。みんなにサムの本当の姿が知られてしまうのでしょうか？その手紙を見たサムが思いついた方法が素敵です。みんなが作家になれる素敵なアイデアに図書館でも見習わなくては！と思った本でした。

『ひまわりのおか』 ひまわりをうえた八人のお母さんと葉方丹 /文 松成 真理子 /絵 岩崎書店

東日本大震災の津波で子どもたちの命が奪われた大川小学校。子どもをなくしたお母さんたちは、子どもたちが避難しようとした場所にひまわりを植えてはじめました。8人のお母さんたちが子どもに宛てた手紙やおはなしをもとにした絵本です。2011年3月11日の子どもたちの様子や描かれている子どもたちの笑顔を見ているだけで涙があふれます。

『限界集落株式会社』 黒野 伸一/著 小学館

都会でバリバリ働いてきた主人公が、限界集落と言われる田舎にやってきたところから話は始まります。農業で限界集落を再生させることができるのか……。今の日本が抱える問題も感じさせられます。実際はこんなにうまくいかないだろうとも思いますが、それでも話のテンポがよく引き込まれていきます。

知ろう私たちの郷土

寛政の式年遷宮^{せんぐう}—『遷宮物語』— 川上裕子

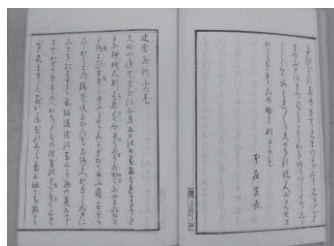
伊勢神宮で二十年ごとに行われている新殿造営の伝統的な儀式である式年遷宮。いよいよ今年の十月に神宮の遷御^{せんぎょ}（新殿にご神体を（神霊）^{うつ}を遷す儀式）が行われる。今回で六十二回目となるこの儀式は様々なメディアにも取り上げられ、式年遷宮に関する本が出版されるなど、県内外を問わず全国から注目されている。

この式年遷宮は、その始まりから終了まで八年間に渡って行われる儀式である。伊勢神宮における第一回目の遷宮は、持統四(690)年に天武天皇の御宿願である伊勢神宮の建て替えを持統天皇が実行した御儀だと言われている。以来、現在までの千三百年以上もの間（途中戦国期の争乱などで途切れた時期もあるが）、遷宮は二十年ごとに行われている。

この遷宮の儀式の次第を記録した文書として「遷宮記」がある。これは神社の遷宮の神事や儀式を先例として残すために記した文書のことで、伊勢神宮には建久元(1190)年からの記録が残されている。また、それらとは別に遷宮の様子を伝える資料もいくつか存在する。津市津図書館所蔵の特殊コレクションの「橋本文庫」にはその一つである『遷宮物語』上中下(L17-1~3)という刊本の資料がある。



（『遷宮物語』上中下）



（『遷宮物語』上 冒頭）

『寛政遷宮物語』とも呼ばれるこの資料の著者は、内宮の権禰宜^{ごんねぎ}であった荒木田(菊屋)末偶^{すえと}という人物で、彼にとっては三回目の経験となる寛政元(1789)年に行われた第五十一回目の式年遷宮の次第を雅文体で書き記したものである。（神職で国学者でもあった彼は本居宣長の門下生でもあり、この『遷宮物語』の序文の一つに宣長が書いたものがある。）

内容としては、天明二(1782)年三月五日に神宮の造営長官となった神祇大副季忠^{じんぎのだいふ すえただ}が伊勢神宮に参宮したという記事に始まり、翌六日の山口祭(遷宮の最初の祭り)から御木曳き、白石持ち、遷御、古物渡(新殿に神宝を移す儀式)に至るまでの各儀式の次第について、内宮を中心として書いたものである。また、この資料は一般の人々にも遷宮や儀式の意味を伝えようとして書かれたものだとされており、遷宮の記録だけではなく、末偶が見聞したことやそれに対しての感想などを記した部分も何箇所も見られる。例えば最初の造営長官の参宮の様子を「其よそひいとらびやかにいはんかたなし」と描写した部分や、山口祭のところで「老の坂こえてうれしく今年もまた山口まつるけふにあひけり」のように和歌を記した部分、遷宮の各祭(儀式)に盛り上がる人々の様子を書いた部分などがある。後に名古屋の書肆(出版社)から刊行(出版)もされており、今回紹介した資料もそこから刊行されたものである。

昔から今に至るまで続く式年遷宮。その内の一回である寛政元年の遷宮に内宮の権禰宜として携わった著者が残したこの資料は、当時の遷宮の様子を今に伝える貴重な資料と言えるだろう。

主な参考文献

下中彌三郎編『神道大辞典(縮刷版)』(臨海書店 昭和六十一年縮刷復刻版)、市古貞次[他]編『国書人名辞典』第二卷(岩波書店 平成七年)、本居宣長記念館編『本居宣長事典』(東京堂 平成十三年)、国學院大學日本文化研究所編『神道事典』(弘文堂 平成六年)、日本古典文学大辞典編集委員会編『日本古典文学大辞典』第三卷(岩波書店 昭和五十九年)、中西正幸著『伊勢の遷宮』(国書刊行会 平成三年)、小堀邦夫著『伊勢神宮のこころ 式年遷宮の意味』(淡交社 平成二十三年)



休館日・開館時間などの **ご案内**

※下記の休館日のほかに特別整理期間(年1回、14日以内)や、臨時に休館することがあります。詳しくは、図書館カレンダー、津市図書館ホームページなどをご覧ください。



携帯電話QRコード

津市図書館ホームページ <http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp>

携帯版ホームページ http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp/cgi-bin/Sopcstop.sh?p_mode=3

館名	開館時間	休館日
津図書館 ☎229-3321 〒514-8611 西丸之内23-1 津リージョンプラザ内	平日 9:00～19:00 土・日曜日、祝・休日 9:00～17:00	火曜日 毎月最終木曜日 年末年始(12月28日～1月4日)
ポルタひさいふれあい図書室 ☎254-0464 〒514-1118 久居新町3006 ポルタひさいふれあいセンター内	平日 10:00～21:00 土・日曜日、祝・休日 10:00～18:00	
芸濃図書館 ☎265-6004 〒514-2211 芸濃町椋本6824 芸濃総合文化センター内	9:00～17:00	
安濃図書館 ☎268-5822 〒514-2326 安濃町東観音寺418 サンヒルズ安濃内	10:00～18:00	
久居ふるさと文学館 ☎254-0011 〒514-1136 久居東鷹跡町2-3	平日 9:00～18:00 土・日曜日 9:00～17:00	火曜日 祝・休日(土・日曜日にあたる場合は開館) 毎月最終木曜日 年末年始(12月28日～1月4日)
河芸図書館 ☎245-5300 〒510-0314 河芸町浜田782	10:00～18:00	
美里図書館 ☎279-8122 〒514-2113 美里町三郷51-3 美里文化センター内	9:00～17:00	
きらめき図書館 ☎292-4191 〒514-0314 香良洲町2167 サンデルタ香良洲内	9:00～17:00 (7・8月の平日は 18:00まで)	
一志図書館 ☎295-0116 〒515-2521 一志町井関1792 とことめの里一志内	10:00～18:00 (7・8月の平日は 19:00まで)	
うぐいす図書館 ☎262-5000 〒515-2602 白山町二本木1139-2 白山総合文化センター内	平日 10:00～19:00 土・日曜日 9:00～17:00	
美杉図書室 ☎272-8092 〒515-3421 美杉町八知5828-1 美杉総合開発センター内	9:00～16:30	

本の返却は期限内に

ようこそ図書館へ 第14号

発行日/平成25年4月1日 編集及び発行/津市教育委員会 津市津図書館
 三重県津市西丸之内23番1号津リージョンプラザ内 ☎(059)229-3321